



モビリティから地域再生を考える Mobility and Regional Revitalization

科目提供大学名	関西学院大学
担当教員	野村 宗訓（関西学院大学 名誉教授・福山大学 経済学部 教授）他 13 名
単位数	2 単位
最大授業定員	40 名
開講学期	後期 3 時限（15：30～17：00）金曜日（9 月 27 日～1 月 17 日、12 月 25 日～1 月 7 日は冬休み期間）
成績評価	出席状況、授業参加態度
テキスト	特になし
参考文献	授業時に提示
授業以外の学習方法	図書館・web による資料検索
その他の特記事項	毎回、質疑応答の時間を作り、双方向の授業とする。
講義概要	航空・鉄道の実態を明らかにするとともに旅行・観光や貨物・物流などの関連産業も考察し、新型コロナウイルスの前後の変化を把握します。近年の脱炭素化に寄与する機材や車両の技術革新、有人ドローンや宇宙旅行などの次世代の移動手段に関しても解説し、将来課題を検討します。
到達目標	交通インフラでは新しいイノベーションが導入されているものの、地方部における運営は厳しくなっている点に焦点をあてる。次に、新型コロナウイルスが日常生活や観光需要に与えた影響を検証する。最後に災害対応・緊急支援、人口減少・地方創生、規制緩和後の利用者保護の点からモビリティについて評価する。全体を通して、官民連携の観点から調べ、適切な規制手法についての理解を深める。
授業計画・内容	1. モビリティの重要性（野村 宗訓） 2. ビジネスジェットへの期待（Aviation Wire 吉川 忠行） 3. 安全運航の基礎 （全日本空輸フライトオペレーションセンター 松尾 康平） 4. ウィズコロナ時代の北海道（北海道総合研究調査会 切通 堅太郎） 5. ふるさとプロジェクト（日本航空 西日本支社 遠山 忠輝） 6. MaaS と地域社会（大谷大学 野村 実） 7. 広域周遊観光の促進（木挽町パートナーズ 石田 哲也） 8. リージョナル・エアライン（フジドリームエアラインズ 小山 仁） 9. 地方鉄道の将来（桃山学院大学 西藤 真一） 10. 航空管制業務（国土交通省大阪航空局 木原 裕一郎） 11. アフターコロナの観光（阪急交通社 橋本 圭司） 12. 地方空港の発展（南紀白浜エアポート 岡田 信一郎） 13. 脱炭素化と鉄道貨物（桃山学院大学 福田 晴仁） 14. ハブ空港と地域共生（NAAセーフティサポート 阿部 克） 15. 次世代型移動手段の可能性（野村 宗訓）



【代表】野村 宗訓（関西学院大学 名誉教授・福山大学 経済学部 教授）

1. 1958 年、兵庫県神戸市生まれ。「民営化と規制緩和」をキーワードに、航空・空港、鉄道・郵便、電力・水道などのネットワーク産業を調べています。主要著書（共著）：『航空グローバル化と空港ビジネス』同文館出版 2010 年、『新しい空港経営の可能性－LCC の求める空港とは－』関西学院大学出版会 2012 年、『航空競争と空港民営化 アビエーション・ビジネスの最前線』関西学院大学出版会 2014 年、『官民連携による交通インフラ改革』同文館出版 2014 年、『モビリティと地方創生』晃洋書房 2021 年。
2. 1980 年代にイギリス・サッチャー政権で推進された「民営化」に関心を持ち、その後、欧州におけるエネルギーや交通部門の公共サービス維持方策について研究しています。NTT、JR、郵政は過去に公社でしたが、民営化後は効率性を意識する民間企業に移行しました。電気・ガスでは料金低下を PR した激しい競争が展開されています。しかし災害復旧や感染症以降のサービス維持を実現する上で、政府・自治体と民間企業のパートナーシップが不可欠です。実態把握を通して、地方創生の解決策を学びます。
3. 交通関係の最前線で仕事をしてきた専門家と学識者が講義を担当します。現役の管制官やパイロットのほか、航空経済紙の編集長、旅行業務取扱管理者、通訳案内士などの資格を持った方々から最先端の情報を提供してもらいます。新型コロナウイルスで大打撃を被っている航空・鉄道のほか、物流や観光の新たな需要発掘を探ると同時に、アプリとつながったバスやタクシー、次世代の乗り物として期待されているドローンや宇宙船の導入から地方創生の可能性を考えます。
4. わが国は人口減少と新型コロナウイルスに直面し、経済発展の鈍化が危惧されています。航空・空港、鉄道・バスなどのモビリティの重要性に加えて、ツーリズムやロジスティックスに関する最近の動向や他国との比較考察から、地方創生に寄与できる視点を身につけてください。専門的な知識を学びながら、広い視野から就職活動を展開する意識を持つことが重要だと思います。